

保証人対象

大学との連絡会 2024

学生取材レポート 9月28日 土曜日

取材協力：東京都市大学 新聞会

2024年度の「保証人対象 大学との連絡会」が8月31日(土)より全国11カ所の会場で開催され、たくさんの保証人の皆様にご参加いただきました。最終日となった9月28日(土)に行われた世田谷キャンパスと横浜キャンパスでの連絡会の様子を、東京都市大学新聞会メンバーによる取材協力のもとご紹介いたします。

世田谷キャンパス

新10号館完成で、世田谷キャンパスに新たな風が

学部の独自性やキャリア支援プログラムを紹介

この日世田谷キャンパスでは、午前10時から情報工学部、知識工学部、都市生活学部、人間科学部、午後1時30分から理工学部、工学部、建築都市デザイン学部の学科(学部)別説明会が開催されました。

都市生活学部の全体説明会は、学部長 宇都正哲教授による学部説明に始まり、文系と理系の融合を目指す都市生活学部の特性を紹介。「複雑化する都市づくりの問題を解決するためには、科学技術だけでなく社会科学と技術を駆使して課題を解決することが重要」と、幅広い領域の学問を横断的に学ぶことの重要性を説明しました。

キャリア委員長 永江総宜教授からは、都市生活学部のキャリア支援など就職関係事項の説明が行われ「就職先として、都市に関わる幅広い業種の中で『不動産』『建設』『情報通信業』『専門・技術サービス業』の4業種で全体の65%を占める」と都市生活学部の就職傾向について話しました。



都市生活学部の説明会では、広い教室がほぼ満席となりました。

続いて末繁雄一准教授から、2年生を対象とした『世界の都市 ヨーロッパ研修2024』についての説明が行われ、「実際に都市を訪れ、体験を通じて学ぶことで、自分の武器にしたい」と話しました。また斉藤圭准教授からは海外関係プログラムについての説明が行われ、4か月間の長期海外留学や1か月間の海外インターンシップなど、グローバル人材になるための様々な「ポスト留学プログラム」について話しました。

就職活動の実際と、企業が求める人材を解説

理工学部機械システム工学科2年生の保証人を対象とした説明会では、最初に全体質問を行い、その後個別質問に対応。就職活動を控える2年生だけに、保証人の皆様と担当教員との活発なやり取りが行われました。

企業側と就活生をつなぐインターンシップに関して、保証人から「インターンシップの選考は書類か面接か?」という質問が出ると、教員側からは「企業にもよるが、採用枠が狭いJAXAなどは面接を重視する傾向にあり、ここで落ちる学生が多い」と具体的な傾向の説明があり、「大学のキャリア支援で面接の練習を積極的に行って欲しい」と準備の必要性が強調されていました。

また、大学院へ進学した場合の就職傾向については「大学院生と学部生が同じ枠を競った場合、大学院生が採用される可能性が高い。大企業では採用枠の7~8割を院生が占め、学部生が採用されないわけではないが、院生が有利なのは確か」と、具体的な説明に保証人の皆様が聞き入る場面もありました。

同じく理工学部機械システム工学科3・4年生の説明会では、卒業研究に関する質問が中心となりました。「卒業研究をしっかりとっても研究成果が出なければ単位が取れないことはあるのか?」という切実な質問には「しっかり研究に取り組んで卒論を執筆し、公聴会で発表すれば、たとえ望む成果が出ていなくても単位認定はされる」という説明に、保証人の方が安堵する場面もありました。



機械システム工学科2年生の説明会。研究室への配属など具体的な質問が集中しました